旅の新ジャンル！
しまねインフラツーリズムの取り組み

島根県　浜田県土整備事務所
島根県　出雲県土整備事務所

1．はじめに

近年、全国的に公共土木施設等（公共インフラ）を観光資源として活用することが広がりを見せています。島根県においても、橋梁などの道路施設をはじめとした地域の公共インフラを観光資源として発掘し、魅力を発信していくことで、既存観光地からの誘導、新たな立ち寄りスポットとして注目され、地域の観光振興に寄与することを目的に、インフラツーリズムの取り組みを展開しています。その一環として、地域に整備された様々なインフラを紹介するガイドブック「しまねインフラツーリズムガイド」を発行しました。このガイドブックを手に地元住民だけでなく、他地域からも島根のインフラを見に現地を巡ってもらうことが期待されます。また、この取り組みを通じて、学生層にものづくりの魅力を伝え、将来、建設業等の技術職を志すきっかけになればとの思いも込めています。本稿では、石見及び出雲地域におけるインフラツーリズムの魅力発信の取り組みについて、紹介します。

2．島根県におけるインフラツーリズムの取り組み

(1) 参加機関

国及び県の出先機関をはじめ、石見及び出雲地域の市町、公益性を有するインフラを所有する民間企業に呼びかけを行い、島根県技術士会、島根県立大学、松江工業高等専門学校のほか、島根ふるさと親善大使（遣島使）、ラジオパーソナリティとしてご活躍されている方々にもご協力いただきました。インフラにスポットをあてたガイドブックの制作は、官民の機関、分野の枠を越え、土木以外の機関も含んだ関係機関が観光振興、地域の活性化に向け、一体となって取り組んだ島根県として初めての試みとなりました。

参加機関等一覧（石見地域）

区分	機関名等
国(3)	松江国道事務所、浜田河川国道事務所、浜田海上保安部
県(11)	県央県土整備事務所、県央県土整備事務所大田事業所、浜田県土整備事務所、益田県土整備事務所、益田県土整備事務所津和野土木事業所、浜田河川総合開発事務所、浜田港湾振興センター、企業局西部事務所、西部県民センター、西部農林水産振興センター、萩・石見空港利用促進対策室
市町(9)	大田市、江津市、浜田市、益田市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町
民間等(7)	石見観光振興協議会、山陰道沿線活性化協議会、西日本旅客鉄道(株)、中国電力(株)、西日本高速道路(株)、石見空港ターミナルビル(株)、中国ウィンドパワー(株)
アドバイザー(4)	島根ふるさと親善大使(遣島使)、島根県立大学、山陰中央テレビジョン放送(株)、(株)山陰中央新報社
オブザーバー(3)	土木部土木総務課、商工労働部観光振興課、政策企画局広聴広報課

参加機関等一覧（出雲地域）

区分	機関名等
国(4)	松江国道事務所、出雲河川事務所、境港湾・空港整備事務所、境海上保安部
鳥取県･島根県(1)	境港管理組合
県(10)	松江県土整備事務所、松江県土整備事務所広瀬土木事業所、雲南県土整備事務所、雲南県土整備事務所仁多土木事業所、出雲県土整備事務所、宍道湖流域下水道事務所、出雲空港管理事務所、企業局東部事務所、東部県民センター、東部農林水産振興センター
市町(6)	松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町
民間(6)	西日本旅客鉄道(株)、中国電力(株)、西日本高速道路(株)、出雲空港ターミナルビル(株)、一畑電車(株)、(株)ユーラスエナジーホールディングス
アドバイザー(6)	ラジオパーソナリティ、松江工業高等専門学校、島根県立大学、島根県技術士会、山陰中央テレビジョン放送(株)、(株)山陰中央新報社
オブザーバー(6)	神話の国縁結び観光協会、島根県建設業協会、島根県測量設計業協会、土木部土木総務課、商工労働部観光振興課、政策企画局広聴広報課

(2) ガイドブック「しまねインフラツーリズムガイド」の発行

「しまねインフラツーリズムガイド」は、国･県･市･町･民間企業が各々管理しているダム、橋梁、港湾、漁港、空港、建築物、発電施設、鉄道など、様々な部門の施設情報を盛り込んでおり、地域に整備されているインフラを幅広く知り、楽しめるマニアックな内容となっています。一方では、誌面に島根ふるさと親善大使、フード＆トラベルライターの西村愛氏（石見地域版）、ラジオパーソナリティの水木彩也子氏（出雲地域版）が地域のインフラを巡り執筆されたコラムを盛り込んでいるほか、一般の方々が撮影されたSNS映えインフラ写真を多数掲載し、読者に親しみやすい頁も設けています。

しまねインフラツーリズムガイド

◇石見地域の特色

中国地方最大の河川である江の川の島根県側には現在30橋が架かっていますが、その構造の種類（アーチ、トラス、吊橋など）、色彩は多種多様で技術的な面白さがあるほか、人工物と自然とのコントラストの美しさは見る者を楽しませてくれます。交通手段が舟から自動車へと移り変わり造られた橋には、度重なる洪水被害から代替わりした橋もあり、地元の生活道路として今も活躍する姿には時代背景を感じることもできます。

石見地域ではダムにも特徴的なものが多く、楽しむことができます。洪水調節をダム用途にもつダムの中では、国内初の平常時は貯水しないダム、アーチダムと見紛うほどカーブを描いた重力式ダム、ゲートダムから治水専用のゲートレスに改造されたダムや堤高県内一のダムのほか、砂防ダムの中にも県施

工で初のアーチ型やウォータークッション工法を採用したダムなどがあり、興味をそそられます。

鉄道に目を向けると、浜田と広島を結ぶ陰陽連絡鉄道として着工された広浜鉄道は、戦前戦後と2度も工事が中断、凍結され、一度も列車が走ることのなかった未成線となり今では「幻の広浜鉄道」と呼ばれています。建設中であった線路跡にはいくつも巨大な橋脚、トンネルが残っており、その中でも戦時中の鉄の使用を減らすために多用されたコンクリートアーチ橋群は土木学会選奨土木遺産に認定され、今では数多くの鉄道遺構を地元ガイドにより案内する見学ツアーなどが開催され、再び脚光を浴びています。また、廃線となった旧JR三江線においても、「天空の駅」として地上高さ20mの日本一であった旧宇都井駅などでも、邑南町を中心に鉄道公園として新たな観光地としての取り組みがなされています。現役のJR駅（大田市駅、江津駅）では明治期に製作された全国的にも希少な跨線橋を見ることができます。

江の川に架かる桜江大橋。三色塗装が特徴。

広浜鉄道橋脚群

◇出雲地域の特色

出雲地域は「古事記」や「出雲風土記」など多くの歴史書が残り、古くからの国づくりの様子をうかがい知ることができます。斐伊川はたびたび氾濫することから暴れ川として古事記に登場しています。それがヤマタノオロチ退治として言い伝えられ、オロチは多くの支川・支流を集めて流れ下る斐伊川の姿を、娘と両親は流域の農民を表し、洪水によって田畑や農民を呑み込み暴れる斐伊川をスサノオが治水によって救ったことを指すとも言われています。斐伊川・神戸川・飯梨川・日野川など多くの河川が宍道湖･中海を経由して、日本海へと流れており、豊富な水資源を活用した農業も盛んとなっています。土木学会選奨土木遺産に認定された「三成ダム」は、治水と利水を兼ねており、砂防と発電を目的として完成した「日本最初のアーチダム」です。工学的な合理性を追求した幾何学的な美しさを持ち、時間とともに自然に溶け込んだインフラも多くあります。また、暴れ川である斐伊川では洪水時に橋が流されることがあるため、比較的補修にお金のかからない潜水橋が多く残っています。

鉄道では、宍道湖の水辺や島根半島の山紫水明な風景を楽しむJR山陰本線、ヤマタノオロチ神話が息づく山深い奥出雲の地を走るJR木次線、朝日や夕日に輝く宍道湖を望み、宍道湖の北岸を走る一畑電車があり、季節と共にSNSなどで多くの写真が投稿されています。

松江市内の建築群は「モダニズム建築の宝庫」と言われており、島根県庁本庁舎や県立図書館など、高度経済成長期に建築されたコンクリート打ちっ放し仕上げで柱や梁を強調した建物が集まっています。

道路では出雲大社の参詣道である神門通りは平成25年に行われた出雲大社御本殿の大遷宮に合わせて、歩行者の安全と車の通行を両立させるための「シェアドスペース」という考え方を導入しています。

自然との調和が美しい三成ダム

出雲大社にある神門通り

(3) 無人航空機（ドローン）を活用したインフラ空撮映像の公開

インフラツーリズムの魅力の一つに、ダムなどの見学会のように構造物のスケールの大きさを間近で体感していただく点が挙げられます。ダムや橋梁などを中心に、そのスケール感をより感じていただくため、また普段見ることのできないアングル、全体を見渡す空撮映像をドローンにより撮影し、YouTube 島根県公式チャンネル「しまねっこ CH」で公開を始めました。空撮は、令和元年度に職員直営による取り組みとして、石見地域にあるインフラを先行して実施しており、橋梁 18 件（道路 16、公園 1、漁港 1）、ダム 10 件（治水 7、砂防 1、発電用 1、農地防災 1）、鉄道 3 件、河川 1 件の計 32 件を公開しています（R3.6.1 現在）。令和 2 年度には、出雲地域にあるインフラの空撮を開始しました。出雲地域の撮影にあたっては、職員直営による撮影に加え、（一社）島根県建設業協会、（一社）島根県測量設計業協会からの協力もあり、魅力あるインフラ映像が数多く撮影されています。これから、随時、出雲地域にあるインフラ空撮映像を公開していく予定としています。

3．様々なツールを活用した情報発信

(1) ウェブサイト

石見地域版のインフラツーリズムガイドの発行に合わせ、島根県の観光情報を発信するサイト『しまね観光ナビ』（運営者：（公社）島根県観光連盟）において、特集ページ「しまねインフラツーリズム in 石見」を公開［R2.7.1 ～］しました。特集ページ内では、石見地域のインフラを巡る 4 つのモデルコースの紹介（位置情報付き）、ガイドブック「しまねインフラツーリズムガイド in IWAMI」電子版の公開及びドローンを活用したインフラ空撮映像など

「しまね観光ナビ」（トップ画面は、R3.6.21 時点のもの）

を紹介し、デジタルを好むユーザーにも配慮した情報発信を展開しています。今後、出雲地域版のインフラツーリズムガイドや出雲地域のおすすめモデルコースを掲載していく予定としています。

(2) テレビ、ラジオ

県広報部署と連携し､県政広報番組『なるほど！吉田くんのしまねゼミ』（テレビ）や『おがっちの「島根学講座！みたいな！」』（ラジオ）を活用（各２回、インフラツーリズムをテーマに放送）し、石見地域や出雲地域のおすすめインフラスポットのみどころを紹介しました。

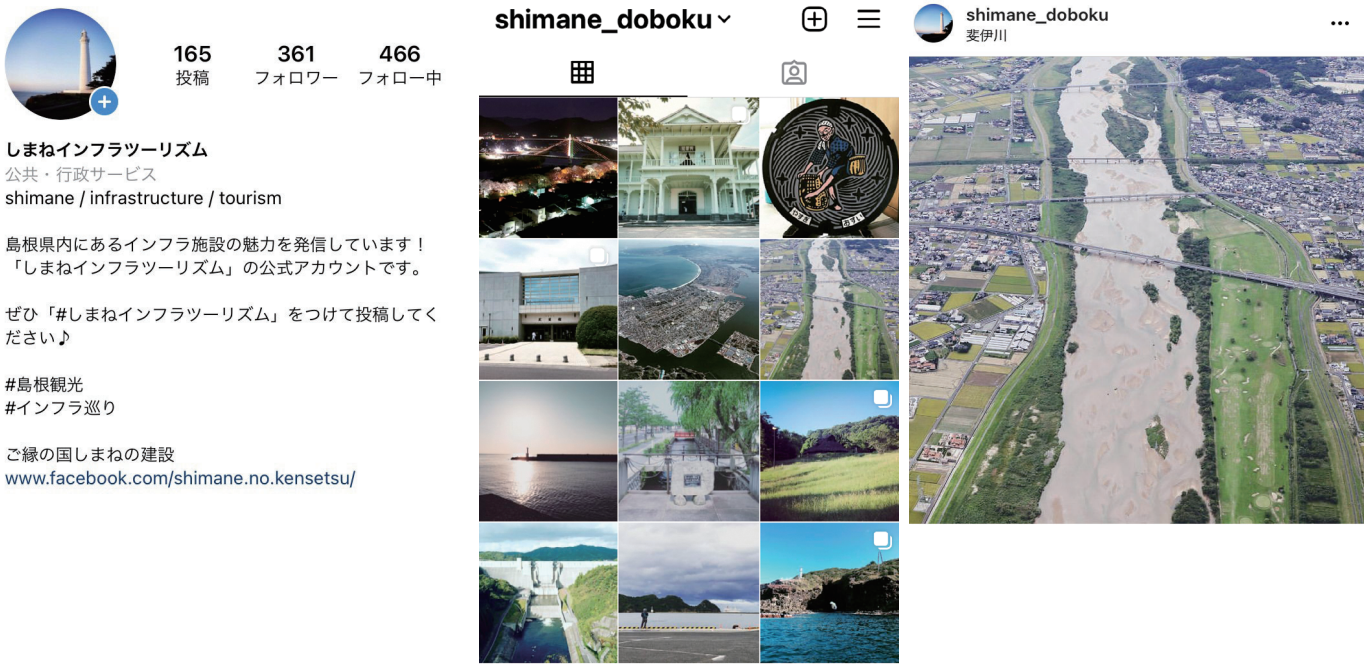
また、山陰地方で放送されている情報番組『ヤッホー！』（テレビ）の特集コーナーでは、「旅の新ジャンル！インフラツーリズム」として、リポーターにインフラスポットを巡ってもらい、現地でしかできない体験や、インフラの魅力を紹介しました。

(3) Facebook、YouTube、Twitter

ガイドブックの発行、ウェブページの公開、テレビ、ラジオ等での特集放送など、インフラツーリズム情報を Facebook 等で随時発信し、観光部署や国市町等他の機関とも連携し、各機関が運営する SNS で情報をシェアし合うことで、情報の拡散に努めました。また、YouTube にドローンの空撮映像を公開した際には、Facebook で「インフラストラクチャー、土木工学など」に興味･関心をもつユーザーを対象に、広告配信を実施しました。YouTube では、インフラ空撮映像のほか、インフラの現地リポート映像も公開しています。

(4) Instagram

季節や自然との調和が美しいインフラ施設は写真との相性もいいことから、ガイドブックで紹介した施設をインスタグラムでも紹介していく取り組みを令和３年１月から開始し、『しまねインフラツーリズム』公式アカウントを開設しました。まずは出雲地域のインフラを毎日紹介し、投稿数も増え、フォロワーも徐々に増加しています。「＃しまねインフラツーリズム」で投稿しています。



インスタグラム

(5) 道の駅での広報

先行してガイドブックを発行した石見地域では、令和２年度に石見地域の全13道の駅において、期間集中のインフラツーリズムPRを展開しました（R2.12.1～R2.12.15）。国及び市町と連携して、道の駅との調整を行い、展示するPRポスターや地域のインフラ紹介チラシは職員で制作し、展示スペースや展示方法（ボードやPC/ディスプレイによる表示など）は道の駅の実情に合わせ柔軟なPR方法をとりました。

道の駅サンピコごうつでのPR展示状況

道の駅瑞穂でのPR展示状況

(6) インフラツーリズムPRポロシャツ

インフラをイメージしたデザイン（ダム、橋、鉄道、風車など）をあしらったポロシャツを制作、職員有志で着用し、インフラツーリズムのPRを行っています。

PRポロシャツ

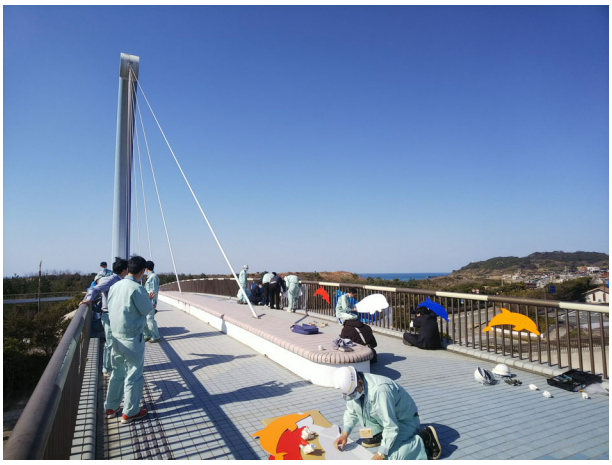
4．各機関の取り組み事例

まずは地域の方々に関心をもって現地に訪れてもらおうと、各機関が建設または管理している施設を活用し、企画した取り組み事例を紹介します。

(1) はっしータワー（都市公園施設、浜田県土整備事務所）

島根県立石見海浜公園内にある斜張橋(片持ち式)「はっしータワー」にひと工夫で、ひと味加えることで、人を呼び込み観光地へ誘導する試みとして、高欄部にイルカのプレートを取り付け、新たなSNS映えスポットを作る企画を行いました。しまね海洋館アクアスのシロイルカにちなんだプレート自体は外注しましたが、取り付け作業は職員直営で行いました。

はっしータワー



作業の様子

(2) 浜田マリン大橋（漁港施設、西部農林水産振興センター）

水産都市浜田市のシンボルである斜張橋「浜田マリン大橋」を地域の方々に、より一層の愛着を持ってもらおうと、普段は上がることができないタワー頂上部の見学会（募集10名、中学生以上の石見地域在住限定)が建設後初めて企画されました。Facebookで参加募集を告知したところ、多くの方々に情報がシェアされ、関心の高さがうかがえました。

浜田マリン大橋

頂上部からの眺望を楽しむ見学者

(3) 波積ダム（建設中ダム、浜田河川総合開発事務所）

島根県内で唯一、建設中のダム現場を見学できる波積ダムでは、ダムのはたらきについて、広く知ってもらうため、地元の方々だけでなく、観光客などにも足を運んでもらおうと、様々な形で魅力の発信に取

り組んでいます。その中の１つ、「波積ダム学習帳」では、園児から小学生低学年、小学生高学年など、年齢層に応じた説明パンフレットとして作成し、配布しています。ほかにも、ダム本体のコンクリート材料となる骨材に見学者が思い思いに記念の寄せ書きをする「メモリーストーン」や時々刻々と変化する“リアル”ダム現場を背景に見学者自らが被写体となりダムカード風の写真が撮影できる「ダムフォト」など、楽しみながら学べ、現地へ訪れることが記念となるよう工夫を凝らしています。

メモリーストーン

ダムフォト

(4) 広報誌『土木を楽しむ』の発行

浜田県土整備事務所では、遊び場に最適なおすすめスポットや“ほっ”とくつろげる憩いの空間など、「土木施設」を『旬』な情報と共に、親しみやすいキャラクターがわかりやすく解説する広報誌を発行し、管内小学校への配布やHPへの掲載、Facebookなどで発信しています。管内にある温泉街の周辺整備の話題や桜を巡るドライブコースなど、旬な話題を提供しています。

広報誌『土木を楽しむ』

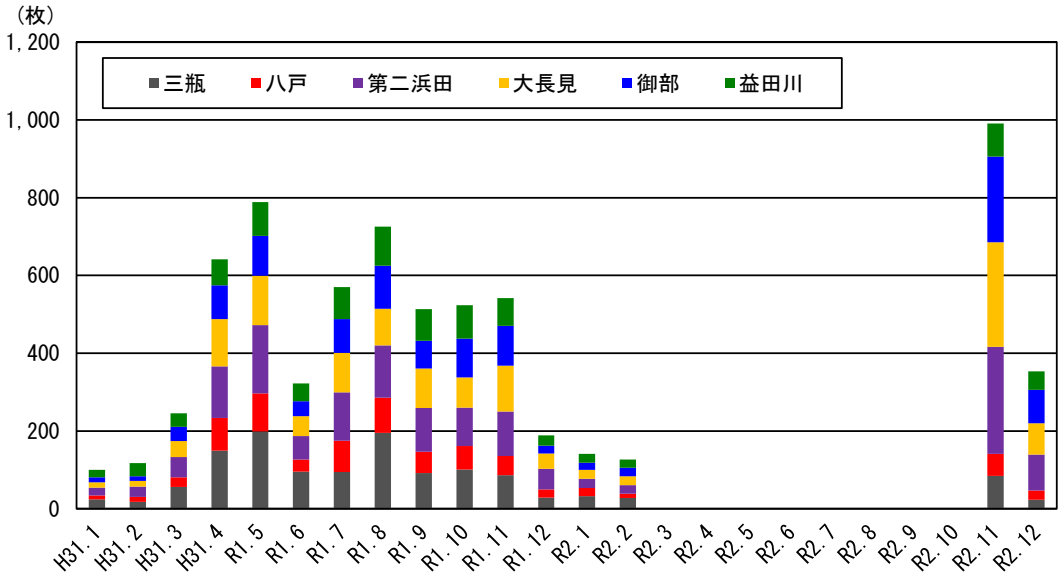
5．取り組みの効果

(1) インフラツーリズムへの反響

「インフラ」を巡るという新しい旅の楽しみ方に触れた一般の方々からは、「このような特集は素晴らしい」「普段入る事のない裏側を見ることができ、支えてくださる人のお仕事を知る事ができ、ワクワクした」「まだ訪れたことがない橋も紹介されていますので、参考にしながら再訪したいです」など、好感を持たれた感想が多数寄せられており、島根への来訪意欲向上につなげることができていると感じています。

(2) ダムカード配布状況にみるダム来訪者の推移

橋梁などの道路施設への来訪者をカウントすることはなかなか難しいですが、各ダムではダムカードの配布状況を把握しています。ダムへ訪れるとひとり１枚もらうことができる「ダムカード」は、そのダムの諸元や特徴が記載され、ダム愛好家の間で人気があり、全国各地から来訪があります。石見地域にあるダムのうち、公式ダムカードを配布している６つのダムの配布推移［H31.1.1 ～ R2.12.31（R2.2.28 ～ R2.10.31 の期間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため配布休止）］を見てみると、様々なツールにより、インフラツーリズムの魅力発信を始めて以降、ダムへの来訪者が増加傾向にあります（前年同月比約 1.8 倍）。



ダムカード配布状況

6．おわりに

インフラツーリズムの取り組みにより、地域に整備されたインフラを広く知ってもらい、その魅力が再発見されることで、現地への来訪を促し、地域活性化へつながること、またインフラの役割、ものづくりの魅力を学生の皆さんに伝え、地域を支えるインフラの整備、維持管理をする将来の担い手として、技術職を志す動機付けにつなげることが期待されます。そのためには、多様化する情報共有ツールを活用し、継続した情報発信が重要であり、日々の業務の中においても、様々な場面で、「土木」「インフラ」のもつ魅力の発信に取り組んでいきたいと考えています。